

所属	心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	修了年度	2019 年度
氏名	櫻井 湧祐	指導教員 (主査)	杉本 希映

論文題目	ソーシャルスキルと対面・CMCの社会的ネットワークが 学校適応感に与える影響
------	---

本文概要

【問題と目的】 大学等の中途退学者の人数は増加傾向にあり（文部科学省，2014），その理由として適応力の低下を挙げている（中村・松田，2012）。学校適応に関わる要因としてソーシャルスキルと社会的ネットワークが挙げられる。ソーシャルスキルはコミュニケーションをとる際に用いられるものが多いが（菊池，1988）、近年コンピューターを介したコミュニケーション（Computer-Mediated Communication；以下 CMC）が拡大してきている。日常的に CMC が頻繁に用いられる現在では，学校適応に CMC でのソーシャルスキルも関係していることが考えられる。以上のことから，CMC ソーシャルスキル尺度の作成と，対面・CMC のソーシャルスキルと社会的ネットワークが学校適応感に及ぼす影響について検討することを目的とする。

【研究方法】 **【研究 1】** 予備調査：大学生，大学院生 48 名（男性 14 名，女性 33 名，性別不明 1 名）に CMC に関する自由記述質問紙調査を実施。本調査：調査対象者 CMC を利用している大学生（因子分析 279 名，妥当性検討 234 名，再検査法 77 名）調査内容①フェイスシート：年齢，性別，学年，CMC 利用の有無②予備調査で項目を選定した CMC 場面ソーシャルスキル尺度③ソーシャルスキル尺度 KiSS-18（菊池，1988）④ソーシャルサポート尺度（石毛・武藤，2005）⑤インターネット行動尺度（藤・吉田，2009）**【研究 2】** 調査対象者 CMC を利用している大学生 198 名（男性 88 名，女性 108 名，不明 1 名）調査内容①フェイスシート②作成した CMC 場面ソーシャルスキル尺度③ソーシャルスキル尺度 KiSS-18④社会的ネットワーク：五十嵐（2002）を参考。⑤青年版学校適応感尺度（大久保，2005）

【結果と考察】 **【研究 1】** CMC 場面ソーシャルスキル尺度について，最尤法を用いて因子分析を行い，19 項目 1 因子構造が得られた。クロンバックの α 係数は $\alpha=.91$ であった。次に，再検査法を実施した結果，ピアソンの相関係数は $r=.81$ であり，時間的安定性が確認された。また，併存的妥当性の検討を行い，やや関連が弱いものがあつたが，併存的妥当性がある程度確認された。

【研究 2】 学校適応感の各下位因子を目的変数，対面・CMC それぞれのソーシャルスキルと社会的ネットワークの重要度を説明変数とした強制投入法による階層的重回帰分析を行った。その結果，社会的ネットワークのどちらか一方でも 1 人以上の群では，「居心地の良さの感覚」においては対面場面社会的ネットワークの重要度，CMC 場面ソーシャルスキルを投入したときに有意な R^2 の変化が見られた。「被信頼・受容感」においては，CMC 場面ソーシャルスキルを投入したときに有意な R^2 の変化が見られた。「課題・目的の存在」においては対面場面社会的ネットワークの重要度を投入したときに有意な R^2 の変化が見られ，CMC 場面ソーシャルスキルを投入したときの R^2 の変化量は有意傾向であつた。「劣等感のなさ」においては，KiSS-18 を投入したときにのみ有意な影響力を示した。対面・CMC の社会的ネットワークにおいて人数がどちらも 0 人であつた群においては，「居心地の良さの感覚」においては，KiSS-18 を投入したときのみ有意な影響力を示し，「課題・目的の存在」においては KiSS-18 とときのみ有意な影響力が見られ，CMC 場面ソーシャルスキルを投入したときの R^2 の変化は有意傾向であつた。「被信頼・受容感」においては CMC 場面ソーシャルスキルを投入したときの R^2 の変化が有意傾向であつた。「劣等感のなさ」においては CMC 場面ソーシャルスキルを投入したときのみ有意な R^2 の変化が見られた。以上から対面・CMC のソーシャルスキル，社会的ネットワークを高める支援を実施していくことで，学校適応が高まると考えられる。